

第13回 蓄熱のつどいでは、「ヒートポンプ・蓄熱システム」の普及拡大にご貢献いただいた112の企業・団体に感謝状を贈呈いたしました。



2010年7月15日(木)、ホテルニューオータニにて、第13回「蓄熱のつどい」が開催され、全国からお集まりいただいた企業・団体に感謝状を贈呈させていただきました。小宮山理事長による特別講演に続き、採用事例の紹介も行われました。各界の指導的立場の方々も集い、会場は約2,000名の熱気に包まれました。

感謝状贈呈式

ますます注目され、期待されるヒートポンプ・蓄熱システム



「ヒートポンプ・蓄熱システムの普及拡大にあたって『育てる』『拡める』『活かす』の各分野でご貢献いただいた方々に感謝状を、さらにCO₂削減により省エネルギー、地球温暖化防止に多大なる貢献をいた

いた方々に特別感謝状を贈呈させていただきます」と、小宮山理事長が式典の趣旨、感謝の意を表し、感謝状贈呈式が開会しました。

来賓の経済産業省資源エネルギー庁 電力・ガス事業部長、横尾英博氏(写真左)より頂戴したご挨拶では、先の閣議決定に触れられ、ヒートポンプ・蓄熱システムの重要性について明記されている「エネルギー基本計画」、「新成長戦略」についてご紹介いただきました。

その後、中村一幸、大野智彦の両副理事長より、感謝状が96企業・団体へ、特別感謝状が16企業・団体へ、それぞれ贈呈されました。

感謝状贈呈の後、贈呈先代表者と小宮山理事長との記念撮影も行われました。

活動発表

10年後の低炭素化、経済発展の鍵を握る取り組み



活動発表では、菅直人内閣総理大臣、直嶋正行経済産業大臣よりご祝辞(石田徹資源エネルギー庁長官代読)を頂戴したあと、小宮山理事長が特別講演「プラチナ構想ネットワーク」におけるヒートポンプ蓄熱システムの役割」を行いました。

また、前原誠司国土交通大臣からは「2020年に向けて新築住宅・建築物の100%省エネ化を目指すことと蓄熱システムとヒートポンプシステム普及拡大の有効性」を、小沢鋭仁環境大臣からは「温室効果ガスの大幅削減について、家庭やオフィスでのヒートポンプ・蓄熱システムは、削減目標達成にむけ、とても重要な省エネ・温暖化対策技術」という祝電のメッセージをいただきました。

導入事例紹介では、筑波大学大学院 内山洋司教授からは「ヒートポンプの拡がり」と題した講演があり、蓄熱普及分科会委員 堀佐和子氏から、全国各地のヒートポンプ・蓄熱システムの導入事例が報告されました。

さらに日本冷凍空調工業会 有馬秀俊会長、名古屋大学 濱口道成総長より、贈呈先代表者のご挨拶をいただき、盛会のうちに閉会となりました。

懇親会

和やかに、情報交換の輪が広がる



活動発表後の懇親会には、約2,000名の参加がありました。

「低炭素化の切り札としてのヒートポンプ・蓄熱システムに対する高まる期待に対し、今後とも積極的な活動を展開していきたい」という中村一幸副理事長(写真左上)の挨拶に続き、電気事業連合会 清水正孝会長(写真右上)から「低炭素社会の実現へ向けては、エネルギーの供給側と需要側の両方の取り組みがますます重要です。私も電気事業者は、供給側の低炭素化とともに、政府策定のエネルギー基本計画や新成長戦略で主要施策として取り上げられているヒートポンプ・蓄熱システムの普及に従前以上の力を注いでいきたい」という力強いメッセージとともに、乾杯のご発声を頂戴しました。

そしてしばらく、和やかで、かつ活発な情報交換のなされる時間を共有しました。